

移築復原

旧沼田貯蓄銀行は、老朽化が著しかったことから、平成24年(2012)に解体調査を行い、銀行営業当時がどのような造りであったのかが判明しました。それにより、移築にあたっては、可能な限り解体した部材を使用し、建築技法も再現するとともに塗装の色についても沼田貯蓄銀行時代の姿に復原することができました。

この建物は、建造された場所での保存修理を検討していましたが、狭い敷地での保存は困難なことから、中心市街地地区画整理事業における「にぎわいの核」の一つとして、上之町に移築復原建築工事をすることとなりました。平成26年9月12日に着手し、平成28年3月22日に完成しました。移築前の名残として、方位飾りは材木町にあった時の方位を示しています。



移築前（材木町）昭和60年頃



移築復原後
(上之町)

利用案内

- 公開時間 午前9時30分～午後5時
- 休館日 水曜日・祝日の翌日
(祝日が水曜日の場合は木曜日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 観覧料 無料
- 駐車場 4台(建物南側)
満車の場合は生方記念文庫(東隣)、または天狗プラザをご利用ください。

所在地

〒378-0047 群馬県沼田市上之町1155-1
電話番号 0278(22)3110(生方記念文庫)

- 公共交通 JR沼田駅から関越交通バス6分
「上之町」、または「東倉内町」下車
- 自家用車 関越自動車道 沼田I.C.から約10分



施設案内

- 生方記念文庫
旧沼田貯蓄銀行の東隣にある歌人「生方たつゑ」の文庫です。
たつゑは、沼田市名誉市民で、短歌界で最も権威ある「迢空賞
(ちょうくうしょう)」を受賞した戦後女流歌人の第一人者です。



群馬県指定重要文化財

旧沼田貯蓄銀行

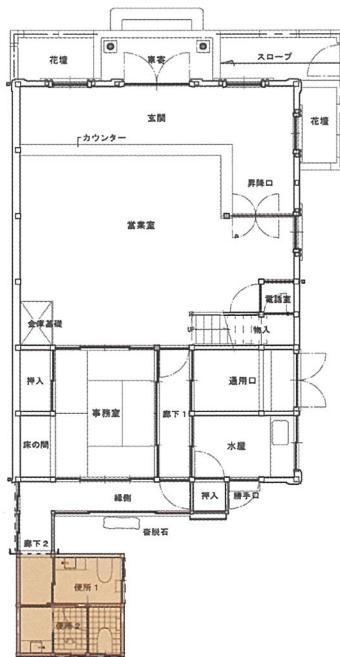


沼田市教育委員会

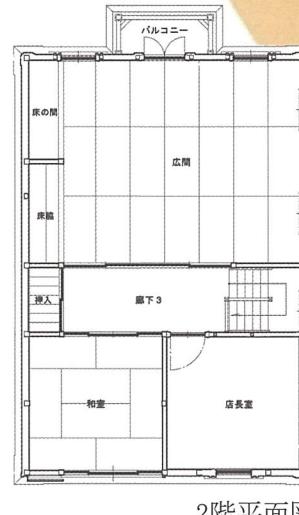


木造の銀行

- ・推定建築年 明治41年頃
- ・文化財指定 昭和59年7月3日
- ・移築 平成28年3月22日
- ・建築様式 木造2階建、寄棟造、洋風建築
- ・面積 1階 92.82 m²
2階 79.34 m²
- ・屋根 桁瓦葺き
- ・壁 漆喰塗壁
(西側(窓のない側)のみ土蔵造り)
- ・窓 上げ下げ窓



1階平面図



2階平面図

背景は営業当時の
沼田貯蓄銀行マーク

「旧沼田貯蓄銀行」 ～建物の歴史～

銀行

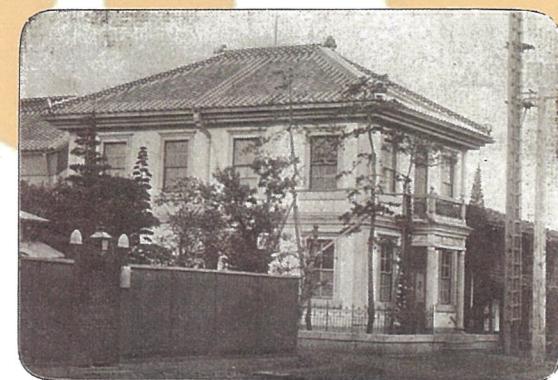
沼田貯蓄銀行は、明治31年(1898)に下之町で創業し、明治36年(1903)に材木町に移転しました。この文化財の建物は、移転から数年後の明治41年(1908)頃に材木町に建てられました。銀行は合併や改称を繰り返し、昭和9年(1934)に、この建物は銀行としての役目を終えました。

事務所

その後は、職業安定所や土地改良区事務所、酪農組合事務所となり、昭和58年(1983)に事務所としての建物の使用を終えました。

県指定重要文化財

昭和59年(1984)に群馬県から重要文化財の指定を受け、歴史的価値が高く意匠的に優秀な建物であると認められました。この建物は、市内においてただ1棟だけの金融史を物語る貴重な文化財です。



沼田貯蓄銀行時代

建築的特徴

旧沼田貯蓄銀行は、明治時代に多く建てられた洋風建築です。西洋建築を知らない大工棟梁が、見よう見まねで和風建築の技術をもって設計・施工した建物です。そのため、この建物は、外観は洋風ですが、内部は和室や床の間があり、一部の壁は土蔵造りという和洋折衷(わようせつちゅう)になっています。

見よう見まねとはいって、当時の職人の粋を極めた技術や様々な工夫で建てられています。2階店長室の天井紙には、欧米の技法を和紙で再現した「金唐革紙(きんからかわかみ)」という伝統技術を見ることができます。凹凸文様を打ち出し、和紙に金属箔(金箔・銀箔等)をはり、色をつけて、全てを手作りで製作する高級紙です。2階店長室は解体した当時の金唐革紙をそのまま使用しました。



金唐革紙の天井紙

左官という壁塗りの技術が見られるところは、玄関ポーチの上部です。鎌(コテ)という道具を使った「鎌絵」を見ることができます。今回の工事で復原しました。



玄関ポーチの鎌(コテ)絵